

大地の静脈



2022年 **5**月**5**日(木・祝) 13:30~16:00(開場13:00)

会場 国立民族学博物館 みんぱくインテリジェントホール(講堂)

定員 160名 入場整理券を11:00から本館2階会場前にて配布します。

参加費 無料(要展示観覧券)

申込 要事前申込み(詳細は裏面とホームページをご覧ください)

主催 国立民族学博物館

共催 鳥取大学乾燥地研究センター

Дэлхийн судал / Die Adern Der Welt / Veins of the World

2020年 / モンゴル・ドイツ合作 / 96分 / モンゴル語 / 日本語字幕付き

日本初公開

監督 ビャンバスレン・ダワー

出演 バト=イレードウィ・バトムフ エネレル・トゥメン

解説 小長谷有紀(国立民族学博物館 客員教員)

司会 島村一平(国立民族学博物館 准教授)

© Tarek Tabet



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

みんなく映画会

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展
「邂逅する写真たち——モンゴルの100年前と今」関連イベント

大地の静脈

Дэлхийн судал / Die Adern Der Welt / Veins of the World

2020年 / モンゴル・ドイツ合作 / 96分 / モンゴル語 / 日本語字幕付き

日本初公開

監督 ビャンバスレン・ダワー

出演 バトイレードウィ・バトムフ エネレル・トゥメン



© Tarek Tabet

2022年の春はモンゴルとの新しい出会いが待っています。みんなくの特別展には約100年前の古い写真が満載。さらに現在の社会的課題も写し取っています。とりわけ環境問題については、この映画によって、写真の背後にある人びとの息づかいを感じてください。上映後はさらに詳しく、映画の背景についてお話いたします。

映画解説

ドイツ在住のモンゴル人女性監督ビャンバスレンは、これまで「らくだの涙」や「天空の草原のナンサ」など、他者からの視線を大いに意識しながら、モンゴル遊牧民の生活の伝統的な姿と変容に焦点をしばって、自文化を紹介する映画を制作してきた。今回は、さらにその延長線上にありつつも、鉱物資源開発に的をあてて、グローバルな課題と地域文化を接合する映画をつくりだした。国際的な開発がモンゴルではどのように現れるかが具体的に明瞭に描かれている。

モンゴルの草原部に暮らす11歳の少年アマラは、両親と妹と一緒に遊牧生活を送っていた。父は車の整備士として働き、母は自家製チーズをつくって地元の市場で売る。そんな平穏な日常が、金鉱を採掘しようとする国際的な鉱山会社の侵入によって脅かされていく。少年が母とともに経験する苦難と成長は、鉱物資源開発による環境破壊といま、まさに向き合わなければならないモンゴル人の運命そのものである。(小長谷有紀)

モンゴルの環境問題

モンゴル国の環境問題は大きく3つに分けられるだろう。

第一に、温暖化による砂漠化。気候変動により、モンゴル全土の76.9%に砂漠化が進んでいる。そこで、フレルスフ大統領は2021年10月の国連総会で、2030年までに10億本の植樹キャンペーンを実施すると約束した。実際に10月4日から「10億本の植林」キャンペーンがスタートし、大統領自ら、ウランバートル市内で植林した。全国の7.9%を占めている森林の面積を2030年に9%に拡大する目標が立てられている。樹木が地下の水分を蒸発させてしまうという課題は軽視されているようだ。

第二に、首都ウランバートルの大気汚染。2018年1月の大気汚染は世界保健機関が定めたPM2.5の国際的な安全基準値の133倍と計測され、世界最悪の値に達した。2019年5月、政府は5割削減を目標に、生石炭の市内搬入を禁止して改良固形燃料の豆炭を導入した。しかし、豆炭による一酸化中毒が発生するなど転換にも障壁がある。

第三に、鉱物資源開発による環境破壊。モンゴルには鉱物資源が約80種類あり、鉱床と鉱床になりそうな鉱徴が合わせて6000箇所もある。それらのうち重要なものは「戦略的鉱床」に指定され、露天掘りによる粉塵や、大勢の移住労働者による水不足をもたらしている。と同時に、「資源の呪い」と言われるように、汚職と経済格差をもたらして社会環境も劣化させている。一方、大がかりな機械を必要としない金の採掘には、ニンジャと呼ばれる零細な採掘者が従事してきた。砂金を洗う洗面器をかつぐ姿が、アメリカで流行したアニメ「ニンジャタートルズ」に似ていたからである。河川の断流、選鉱に用いる水銀による土壤汚染などの問題が山積みのままである。

こうした諸問題はモンゴル人自身が解決していかなければならないことを本映画はさりげなく伝えている。(小長谷有紀)

2022年5月5日(木・祝)
13:30~16:00(開場13:00)

会場 国立民族学博物館
みんなくインテリジェントホール(講堂)
定員 160名
入場整理券を11:00から本館2階会場前にて配布します。
参加費 無料(要展示観覧券)
申込 要事前申込み
(詳細は下記とホームページをご覧ください)
解説 小長谷有紀(国立民族学博物館 客員教員)
司会 島村一平(国立民族学博物館 准教授)
主催 国立民族学博物館
共催 鳥取大学乾燥地研究センター

日本・モンゴル外交関係樹立50周年記念特別展 邂逅する写真たち ——モンゴルの100年前と今

2022年3月17日(木) — 5月31日(火)

会場 国立民族学博物館 特別展示館
※詳細は当館ホームページをご確認ください。

みんなく映画会

焼畑から見た日本の文化 上映作品「椿山—焼畑に生きる」

2022年4月30日(土)

会場 国立民族学博物館
みんなくインテリジェントホール(講堂)
※詳細は当館ホームページをご確認ください。

申込方法

事前予約・定員制(先着順)での開催となります。●定員:160名 ●代表者を含め2名までお申込み可能です。●受付期間:4月4日(月) 10:00~4月28日(木) 17:00
定員になり次第受付終了 ※解説時に手話通訳が必要な方は、4月15日(金)までにお申込みいただき、その旨をお知らせください。

事前申込みをされた方には、当日11:00から本館2階会場前にて入場整理券を配布します。定員に満たない場合のみ当日参加を受け付けます。

予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。 ※オンライン(ライブ配信)の実施はありません。

〈イベント予約サイトからのお申込み〉 イベント予約サイト <https://entry-reservation-event.minpaku.ac.jp/>

〈メール・電話でのお申込み〉 (次の必要事項をお知らせください。) ①件名に「5月5日みんなく映画会」 ②参加人数(代表者を含め2名まで)

③氏名(漢字、フリガナ) ④連絡先(固定電話/携帯電話/メールアドレス いずれか) ⑤お住まいの都道府県(③~⑤は代表者のみ)

【申込先】企画課博物館事業係イベント予約受付 E-mail: yoyaku-event@minpaku.ac.jp Tel: 06-6878-8210(10:00~16:00 土日祝除く)

イベント予約サイト
QRコード↓



国立民族学博物館 National Museum of Ethnology

ご来館のみなさまへ

新型コロナウイルス感染症の状況によっては、会期・イベント等を変更・中止する場合があります。事前にホームページでご確認ください。またオンライン予約でのご来館にご協力ください。

- 開館時間 10:00~17:00(入館は16:30まで)
- 休館日 水曜日(水曜日が祝日の場合は、翌日が休館)
ただし5月4日(水・祝)、5月5日(木・祝)は開館。5月6日(金)は休館。
- 観覧料 一般 580円 / 大学生 250円 / 高校生以下 無料
※観覧料割引についてはホームページでご確認ください。

交通のご案内

- 大阪モノレール...「万博記念公園駅」、「公園東口駅」下車徒歩約15分
- バス 阪急茨木市駅・JR茨木駅から「日本庭園前」下車徒歩約13分
- 乗用車 万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分

※大学生・一般の方は万博記念公園各ゲートで、当館の観覧券をお買い求めください。
同園内を無料で通行できます。

※高校生以下の方、「国立民族学博物館友の会」会員の方は万博記念公園各ゲート有人窓口で、みんなくへ行くことを申し出いただき、通行証をお受け取りください。

※万博記念公園をご利用になる場合は、同園入園料が必要です。

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10番1号
企画課 博物館事業係
Tel: 06-6878-8210 Fax: 06-6878-8242
<https://www.minpaku.ac.jp/>

